

# 第8章 不定詞

## 第1節 不定詞とは

「不定詞」とは、「動詞の原形」を含んだ部分が、文中の「述語動詞以外の部分」（つまり、「主語 (S)」「目的語 (O)」「補語 (C)」「修飾部分 (M)」のいずれか)として機能する表現方法のことです。「動詞」という品詞は、本来「文の要素」の「述語動詞 (V)」として機能します。しかし「不定詞」となった「動詞の原形」は「述語動詞 (V)」としては機能せず、以下の表のように「述語動詞以外の部分」として機能するようになります。

なお、「不定詞」には、動詞の原形の前に「to」がついた形から始まる「to不定詞」と、「to」がつかずに、動詞の原形から始まる「原形不定詞」の2種類があります。

文の要素		対応する基本的な品詞	to不定詞	原形不定詞
(V) 述語動詞	→	動詞	×	×
(S) 主語	→	名詞または代名詞	○ (名詞的用法)	×
(O) 目的語	→	名詞または代名詞	○ (名詞的用法)	×
(C) 主格補語	→	名詞または代名詞、 または形容詞	○ (名詞的用法)	×
(C) 目的格補語	→	名詞または代名詞、 または形容詞	○ (名詞的用法)	○
(M) 修飾部分 (名詞を修飾する)	→	形容詞	○ (形容詞的用法)	×
(M) 修飾部分 (動詞や形容詞や副詞を修飾する)	→	副詞	○ (副詞的用法)	×

(★「品詞」と『文の要素』の相関図) → P. 14 参照。

### 1. to不定詞 (to + 動詞の原形)

「to + 動詞の原形」から始まる「言葉のかたまり (句)」のことを「to不定詞」と言います。

「to不定詞」は、元々「動詞」が持っている「動詞としての本来の機能」の他に、「名詞」や「形容詞」や「副詞」などの「別の品詞の機能」が加わったものです。つまり、「to不定詞」は、「動詞 + 名詞」あるいは「動詞 + 形容詞」あるいは「動詞 + 副詞」の働きをするものと言えます。

「to不定詞」には、以下の3つの「用法」があります。

- 「to + 動詞の原形」から始まる句を「1つの名詞」として扱う表現を「to不定詞の名詞的用法」と言います。
- 「to + 動詞の原形」から始まる句を「1つの形容詞」として扱う表現を「to不定詞の形容詞的用法」と言います。
- 「to + 動詞の原形」から始まる句を「1つの副詞」として扱う表現を「to不定詞の副詞的用法」と言います。

### (1) to 不定詞の用法 1：名詞的用法

「to 不定詞の**名詞的用法**」では、「to + 動詞の原形」から始まる句が「1つの名詞」として機能し、文中で「主語」や「動詞の目的語」や「補語」や「前置詞の目的語」として機能します。この場合、「to」の部分は「～すること」のような日本語で表されます。

例：You need **to take this medicine.**

「あなたはこの薬を飲むことを必要としている。」

(「to take this medicine」全体が1つの「to 不定詞」となり、述語動詞「need」の目的語となっている。)

### (2) to 不定詞の用法 2：形容詞的用法

「to 不定詞の**形容詞的用法**」では、「to + 動詞の原形」から始まる句が「1つの形容詞」として機能し、文中の「名詞」を修飾します。この場合、「to」の部分は「～すべき」や「～するための」のような日本語で表されます。

例：I have some books **to read.**

「私は読むべき何冊かの本を持っている。」

(「to read」全体が1つの「to 不定詞」となり、名詞「books」を修飾している。)

### (3) to 不定詞の用法 3：副詞的用法

「to 不定詞の**副詞的用法**」では、「to + 動詞の原形」から始まる句が「1つの副詞」として機能し、文中の「動詞」や「形容詞」や「副詞」を修飾します。この場合、「to」の部分は「～するために」や「～して」や「～するのに」のような日本語で表されます。

例：I came here **to help you.**

「私はあなたを助けるためにここに来た。」

(「to help you」全体が1つの「to 不定詞」となり、動詞「came」を修飾している。)

## 2. 原形不定詞

「to」がついていない不定詞を「**原形不定詞**」と言います。原形不定詞は主に「**知覚動詞**」や「**使役動詞**」の「目的格補語」として使われます。

(★「知覚動詞」→ P. 102 参照。)

(★「使役動詞」→ P. 104 参照。)

例：I sometimes see my son **do the dishes.**

「私は時々私の息子が皿洗いをするのを見かける。」

(「do the dishes」全体が「原形不定詞」となり、述語動詞(知覚動詞)「see」の「目的格補語」となっている。)